

大災害時における 医師会員対応マニュアル

(急性期 48 時間以内)

平成 27 年 3 月

公益社団法人四日市医師会

はじめに

日本列島は、アルプス・ヒマラヤ造山帯と並び地球の大陸を構成する2大造山帯の一つで太平洋を取り巻く環太平洋火山帯（別名造山帯）と言われる火山帯の東の端に位置しています。日本列島を地球規模から眺めてみると、マントル対流により東側から押し寄せてくる太平洋プレート、フィリピン海プレートとそれに抗する西側からのユーラシアプレート、北米プレートの端境に日本列島は位置しています。これらのプレートの接点では周期的に大地震が発生しています。この圧力による歪みによる活断層が二千以上あると言われていています。

我々はこの20年の間に、1923年に発生した関東大震災に匹敵・或いはそれ以上の規模の、活断層による直下型地震である阪神・淡路大震災とプレート型地震である東日本大震災2つの震災を経験しました。東日本大震災時には発生した津波による原子力発電所による被害の対応について、放射能の問題を始めとしていまだに数多くの問題が残っています。

四日市医師会が管轄する四日市市と周辺の三町（朝日町・川越町・菰野町）の沿岸部には石油コンビナートや火力発電所といった化石燃料や天然ガスを利用した様々な施設が存在し、プレート型地震である東海・東南海・南海三連動地震発生時には、直接的な被害と、地震に伴い発生する津波による被害を想定しなければなりません。一方、内陸部には鈴鹿東縁断層帯が走っており、直下型地震を想定した対応も必要です。近い将来に予想される巨大災害に備え常日頃から心構えをする必要があります。

四日市医師会では、発生する地震の形態や被害の状況に関係なく、発災時に個々の会員がとるべき行動について検討を重ねてきました。数多くの資料を収集し、普遍化・簡素化を目指し救急及び災害医療対策委員会（委員長 市原 薫）で災害の種類にかかわらず対応方法を目指して検討を重ねてきました。このたび、阪神・淡路大震災発生から20年を一つの節目として現時点でのマニュアルを完成させることにいたしました。今後災害発生に関して新たな事実が発見され、また発災後のより効果的な対応方法が示された時に、このマニュアルに改良を加えられることを期待します。

平成27年3月

公益社団法人 四日市医師会

会 長 淵田 則次

**大災害時における
医師会員対応マニュアル**

目 次

1. 考え方	1
2. 医師会員の災害時基本原則	2
3. 医師会員の災害時時間経過行動チャート	3～4
4. 医師会及び医師会員の役割	5～6
5. トリアージと処置	7～9
6. 各地区市民センター等への医師会員配置表	11～12
7. 医療材料の備蓄	13
8. 48時間以降の対応	14
9. 災害訓練	14
10. 四日市医師会職員マニュアル	15
11. 様式	
(1) 四日市医師会通報書 (四日市地域救急医療対策協議会 改版)	
.	16
(2) アセスメントシート (石巻日赤病院 改版)	17

1. 考え方

(1) 目的

本マニュアルは、「四日市市地域防災計画」及び三重郡三町の各「地域防災計画」を補完するものとして、災害時医療活動の詳細を規定するものであり、主として発災急性期（48時間以内）の医療救護活動を定める。

(2) 適用基準

- ①南海トラフ地震（東海・東南海・南海地震）による建物倒壊、津波の発生。

南海トラフ地震での津波到達時間は80分程度、四日市沿岸で最大3.0m、国道1号線あたりまで浸水（行動を妨げる30cm）する可能性があるとされている

- ②直下型地震による建物倒壊の発生。

（養老・桑名・四日市断層、布引山地東縁断層帯、頓宮断層）

- ③四日市市あるいは三重郡三町において、それぞれに災害対策本部が設置されるか設置される可能性が大きいとき。

ただし、規模の小さい災害にも適用可能であり、適用の可否及び適用地域等について、地域災害医療コーディネーターと協議の上、医師会長が判断する。

(3) 変更・修正

災害時に有効活用するため必要があると認められるときは、速やかに修正する。

2. 医師会員の災害時基本原則

- (1) 医師会員は、すべての被災者・傷病者に医療を提供するため医療救護活動に参画する。
- (2) 医師会員は、まず会員自身及び自らの家族の安全を優先し、その後医療救護活動が可能となった医師会員から順次本マニュアルにそって対応する。
- (3) 医師会員は、日ごろから地域の災害訓練活動に率先して参加し、手順を把握しておく。
- (4) 医師会員は、地域の災害医療機関及び関係機関（消防機関、行政機関等）との連携を図る。
- (5) 医師会員は、確認できる範囲での被害状況、推定の被災者・傷病者数等の現場情報を収集し、市及び町をはじめ行政機関、地域住民に情報を発信する。

3. 医師会員の災害時時間経過行動チャート

(1) 事前の対応

- 自院の建物は、耐震・制震、免震となっている。
- 自院の建物は、すでに耐震・安全性診断を受けている。
- 自院の医療機器、棚等の転倒・転落の防止措置が実施されている。
- 自院に自家発電装置はある。
- 自家発電のための燃料を3日分備蓄している。
- 下水配管の破断防止措置が施されている。
- 水洗トイレが使用不能な場合の対応を検討している。
- プロパンガスの備蓄はある。
- 医療用酸素の備蓄はある。
- 飲料水の備蓄はある。
- 医薬品・医療材料の備蓄はある。
- 医師会の作成した災害時救急マニュアルについて理解する。
- 各地区市民センター及び役場・支所への参集登録メンバーについて把握する。
- 避難所の開設される小・中学校の場所、校内配置図、防災無線の設置場所、医療資機材の保管場所等を把握する。
- 近隣地区市民センターごとに災害時の対応をよく協議しておく。
- トリアージについて理解する。
- 地元地域の防災訓練等に積極的に参加する。

(2) 災害直後の対応

- 会員自身及び家族・従業員の安否確認をする。
- 会員自身及び従業員が救護活動に参加可能か判断する。
- 参集登録の近隣地区市民センターに情報を入れる。
 - 自院での診療継続の可否
 - 周辺の被害状況（ライフラインの状況等）
 - 連絡方法
- 避難所が設置される小・中学校等の被災状況を判断し、安全に十分留意する。

- 可能な範囲で防災時に利用できる医薬品を持参する
- 避難所が設置される小・中学校等の適当な場所にトリアージ場所を設置する。
- 保健所、防災倉庫等から医療資機材を避難所へ搬送する。

(3) 発災後 48 時間以内の対応

- 避難者には、必要ならトリアージ場所にて、最初にトリアージを行う。
- トリアージをうけずに、直接救急病院には搬送しない。
- 必要なら医療機関を指定し、そこで医療活動を行うことも考慮する。
- 時間とともに参加人員も増えるので、本部共とも連絡を取りながら、臨機応変にチームを編成する。
- 避難所の衛生管理、被災者の体調管理に指導・助言をする。

4. 医師会及び医師会員の役割

発災直後

家族・職員を含めた身の回りの安全確認と確保

- ・津波被災想定地区では津波情報等の確認、率先避難

安全が確認後

(1) 自院の状況確認と地域の情報収集（特に医療情報）

(2) 最寄りの地区市民センター等に向かう

目的：情報提供（自院と地域）と連絡方法の確立（別紙 通報書等）

- ・自院での診療ができない場合は、診察できないことを入口に張り紙をする
- ・交通事情等によっては、最寄り以外の地区市民センター等へ臨機応変に素早く動く

情報提供後の活動

(1) 地域での活動

① 自院で診察が可能であれば、これを優先することができる

② 自院で診察ができない場合

- ・自院の整理
- ・使用できる診療材料の確保
- ・地区市民センター（市・町）又は医師会の災害対策本部からの指示を待つ
- ・消防等からの要請があればトリアージ（特に黒の確認）を行う

(2) 地区市民センター等での活動

- ・地区市民センター等に集結した会員からリーダー及び連絡係（医師でなくてもよい）を置く
- ・リーダーは入手した医療情報（別紙 アセスメント）をまとめ、地区市民センター等を通じて市・町及び医師会災害対策本部に報告すると共に、会員に連絡する
- ・連絡係は逐次地域の情報収集にあたりるとともに、会員への連絡を密にする
- ・医療救護所が立ち上がる場合は、リーダーの指示に従い、その立ち上げ、診療に協力する。

医師会及び医師会員の役割

災害が発生したら

①自分の身の回りの安全確保、確認



②安全が確認できれば



③地区市民センターへ向かう
(自院での診察が可能であればこれを優先させることができる)



④地区市民センター(交通事情など、場合によっては他の地区市民センターへ臨機応変に素早く動く)



④について

- ①防災無線が可能なら防災無線で市の災害本部へ
現状報告と医師会災害対策本部からの指示を受ける
 - ・防災無線が使用できなくても、ラジオ、アマチュア無線等あらゆるものを活用し情報収集を行う。

- 道路状況、負傷者の搬送経路はあるか
- 医療材料の運搬は可能か

- ②入った連絡事項や情報 (連絡係を置く) → (別紙通報書にて) 報告 → 活動中の医師(リーダー)

医師会災害対策本部への連絡 (別紙アセスメントにて)

- ③トリアージを行い治療の為にレイアウト (テーブル仕切りなど)を行う

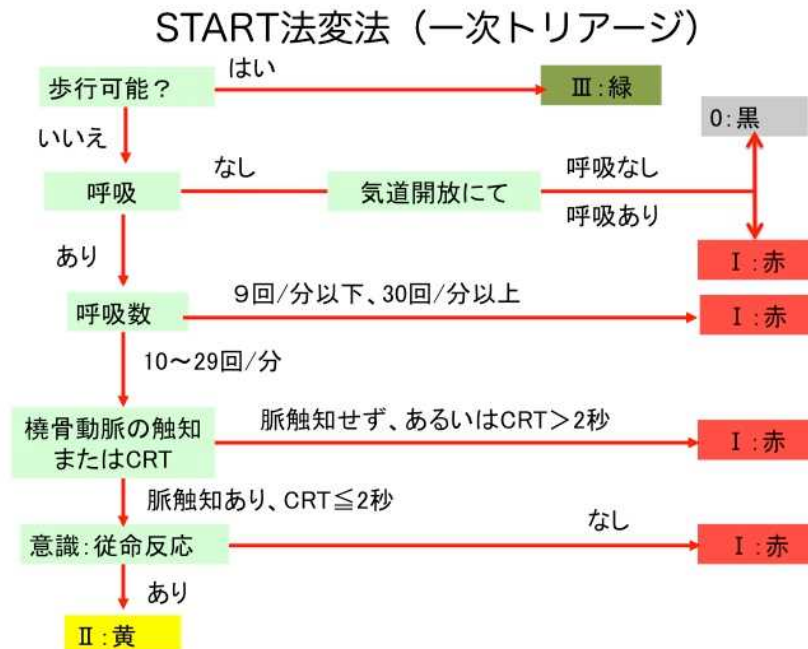
5. トリアージと処置

スタート方式で行う

- (1) 呼吸、循環、意識を中心に緊急度、重症度を判断する
- (2) 極めて簡略化した方法で進める
- (3) 重症と思われる人を優先する
- (4) 病態が変化したら再トリアージを行う

参考

- 1) 一次トリアージ (START 法等)
 - ・ 傷病者を大きく軽症とそれ以外に分ける (ふるい分け: SIEVE) という考え方に基づいて行う.
 - ・ 呼吸、循環、意識の3つの簡便な生理学的評価を行い、30秒程度で迅速に評価
 - ①迅速 (一人30秒以内): 治療をしない、軽傷者を切り離す
 - ②簡便 (器具を用いない)
 - ③適切 (重傷者を見逃さない)
- 処置は活動性出血に対する圧迫止血と気道閉塞での下顎挙上のみ



2) 二次トリアージ (生理学的・解剖学的評価法 : PAT 法)

- ・一次トリアージの精度を向上させる
 - ・一次トリアージでふるい分けられた傷病者を, 処置・搬送を目的にその緊急度・重傷度に従い並び替え (SORT) を行う
- ① 第一段階で生理学的評価を行う
 - ② 第2段階で全身の観察による解剖学的評価を行う
- ①、②で該当する異常があれば赤

生理学的・解剖学的評価法 (physiological and anatomical triage : PAT)

- (1) 第1段階で生理学的評価を行う
(2) 第2段階で全身の観察による解剖学的評価を行う

(1), (2) で該当する異常があれば緊急治療群 **赤**

- (3) 必要に応じ、第3段階で、受傷機転による評価も行う **黄**
(4) 災害弱者にも配慮する **黄**
(5) 可能な限り、迅速に行う (1~2分を目標)

第3段階 (受傷機転)
体幹部挟まれ、1肢以上の挟まれ (4時間以上)
高所墜落、爆発、異常温度環境
有毒ガス、NBC汚染

第4段階 (災害弱者)
幼少児、高齢者、妊婦、障害者、
慢性基礎疾患、旅行者

PATは救護所で使用可能と考えられる心電図モニター、血圧計、SpO₂モニター、聴診器、ペンライトなどの使用を前提としている

第1段階：生理学的評価

- ・意識 : JCS : 2桁以上、GCS : 8以下
 - ・気道閉塞、舌根沈下
 - ・呼吸 : 9回/分以下、30回/分以上
 - ・脈拍 : 120回/分以上、50回/分未満
 - ・収縮期血圧 : 90mmHg未満
200mmHg以上
 - ・SpO₂ : 90%未満
 - ・その他 : ショック症状
 - ・低体温 : 35°C以下
- 10秒カウント×6

血圧やSpO₂、体温が基準となっているが全例の傷病者に対して必要なわけではなく可能な状況で実施する。

第2段階：解剖学的評価

- 開放性頭蓋骨陥没骨折
- 外頸静脈の著しい怒張
- 頸部または胸部の皮下気種
- 胸郭の動揺、フレイルチェスト
- 開放性気胸
- 腹部膨隆、腹壁緊張
- 骨盤骨折（骨盤の動揺、圧痛、下肢長差）
- 両側大腿骨骨折（大腿の変形、出血、腫脹、圧痛、下肢長差）
- 四肢の切断
- 頭部、胸部、腹部、頸部または鼠径部への穿通性外傷（刺創、銃創、杵創など）
- デグロービング損傷
- 15%以上の熱傷、顔面または気道の熱傷を合併する外傷

6. 各地区市民センター等への医師会員配置表

(1) 医療対策本部

本部長	会長	淵田 則次	補佐	会計理事	
副本部長	副会長	加藤 尚久		庶務理事	
	副会長	水谷 健一		副本部長	

(2) 各地区市民センター等への参集・配置予定 (診療時)

(五十音順)

センター /役場	会員名	会員名	会員名	会員名	会員名
富洲原	①石川 能正	②上野 富生	③阪井 貴久	④山下 敦史	⑤吉田 康史
	⑥吉村 栄治	⑦渡邊 真也			
八郷	①奥山 英尚	②宮国 博佳	③村上 裕哉	④森 寛司	
富田	①岡本 耕典	②河野 稔彦	③小林 篤	④斉藤 大樹	⑤竹内 誠吉
	⑥濱田 宏昭	⑦深津 康博	⑧前田 佳之		
大矢知	①伊藤 毅	②加藤 雅典	③川平 悟	④米田 勝紀	⑤中尾 孝
	⑥西口 健				
羽津	①伊藤 博一	②今谷 啓之	③川戸 浩明	④越山 肇	⑤後藤 義明
	⑥住田 安弘	⑦竹内 隆司	⑧鳥内 勉	⑨中嶋 正雄	⑩中藪 雅弘
	⑪長谷川 浩一	⑫廣藤 秀雄	⑬福生 治城	⑭松井 孝治	⑮森 健太郎
	⑯森 俊三				
海蔵	①飯田 俊雄	②竹島 弘知	③館 和宏	④鳥井 孝宏	⑤古田 雅彦
	⑥古田 義博	⑦森 義久	⑧山脇 崇		
橋北	①小野 啓吾	②葛西 普一	③川口 卓也	④安井 廣迪	
中部	①伊藤 豪俊	②来田 實	③中尾 浩子	④西村 泰豪	⑤原 健
	⑥藤田 典己	⑦武藤 康正	⑧山田 典夫	⑨山田 幸典	
常磐	①伊藤 仁	②伊東 猛	③稲垣 政志	④小田 慶一	⑤加藤 研次郎
	⑥川村 直人	⑦久保田 洸	⑧田中 公子	⑨田中 健二	⑩時女 和也
	⑪豊田 國彦	⑫村山 是	⑬芳岡 三伊		
神前	①雨宮 喜雄	②菅 孝明	③竹中 巧		
川島	①加藤 浩	②小林 良隆	③品川 正	④種田 寛	⑤長谷川 克純
	⑥東 泰行				
三重	①伊藤 豊	②太田 啓雄	③加藤 文人	④川村 芳秋	⑤竹尾 雅樹
	⑥塚本 宏滋	⑦廣田 有	⑧山本 秀紀	⑨吉峰 順子	⑩若林 致雄
河原田	①笠井 繁毅	②玉垣 浩美			
日永	①貝沼 悟	②高瀬 幸次郎	③中村 泰	④藤田 康平	⑤藤田 友彦
	⑥古田 一朗	⑦三原 貴照	⑧八谷 有生	⑨山崎 悟	⑩山本 哲也
内部	①大岩 秀江	②重盛 憲三	③田矢 功司	④淵田 則次	⑤淵田 科
	⑥牧田 慶久	⑦山森 文平			
四郷	①伊藤 良子	②片岡 紀和	③鈴木 尚温	④畑 洋子	⑤日置 琢一
	⑥柳田 誠	⑦山田 清治	⑧山中 賢治		
小山田	①矢田 和彦				
塩浜	①位田 正明	②藤原 庸隆	③松尾 秀一		
楠	①飯田 浩次	②磯野 誠司	③杉浦 寧	④寺島 秀樹	⑤真鈴川 寛
県	①有馬 忍	②加藤 尚久	③星野 輝彦	④安井 廣之	
保々	①本間 れい子				
下野	①水谷 直巳	②水谷 正巳			
桜	①伊藤 幹弥	②喜畑 雅文	③坂倉 健二	④中嶋 恒雄	⑤原澤 博文
	⑥水谷 健一	⑦水谷 美紗子	⑧山田 素久		
水沢	①堀場 充				

市役所	①岩崎 明実	②臼田 千枝子	③奥島 玲人	④小谷 鐵馬	⑤佐藤 浩生
	⑥杉本 浩多	⑦梶山 知英	⑧田中 元也	⑨塚本 久和	⑩中嶋 一樹
	⑪二宮 俊之				
川越町	①石橋 樹	②中尾 明江			
朝日町	①田中 敏幸	②寺本 誉男	③西浦 理佳	④山下 昌哉	
菰野町	①石原 知明	②上野 起功	③橋本 健治	④畑田 みさ子	⑤服部 正大
	⑥諸岡 隆				

※平成27年3月18日災害医療アンケートの結果より集計

169名

(3) 各地区市民センター等への参集・配置予定 (診療時以外)

(五十音順)

センター /役場	会員名	会員名	会員名	会員名	会員名
富洲原	①石川 能正	②吉田 康史			
八郷	①奥山 英尚	②加藤 雅典	③宮国 博佳	④村上 裕哉	
富田	①磯野 誠司	②岩崎 明実	③河野 稔彦	④小林 篤	⑤斉藤 大樹
	⑥濱田 宏昭	⑦深津 康博	⑧前田 佳之		
大矢知	①川平 悟	②阪井 貴久	③西口 健	④吉村 栄治	
羽津	①伊藤 博一	②今谷 啓之	③後藤 義明	④竹内 隆司	⑤中嶋 正雄
	⑥中藪 雅弘	⑦福生 治城	⑧松井 孝治	⑨森 健太郎	
海蔵	①飯田 俊雄	②竹島 弘知	③館 和宏	④鳥内 勉	⑤山脇 崇
橋北	①葛西 普一	②川口 卓也	③安井 廣迪		
中部	①有馬 忍	②伊藤 豪俊	③川戸 浩明	④来田 實	⑤塚本 宏滋
	⑥西村 泰豪	⑦原 健	⑧藤田 典己	⑨武藤 康正	⑩山田 典夫
常磐	①加藤 研次郎	②久保田 洌	③佐藤 浩生	④田中 公子	⑤時女 和也
	⑥中尾 浩子	⑦日置 琢一	⑧牧田 慶久	⑨村山 是	⑩芳岡 三伊
神前	①菅 孝明	②竹中 巧			
川島	①伊藤 仁	②伊藤 幹弥	③加藤 浩	④小林 良隆	⑤梶山 知英
	⑥種田 寛				
三重	①加藤 文人	②川村 芳秋	③廣田 有	④山本 秀紀	⑤若林 致雄
河原田	①笠井 繁毅	②玉垣 浩美	③長谷川 浩一		
日永	①貝沼 悟	②重盛 憲三	③中村 泰	④藤田 康平	⑤藤田 友彦
	⑥三原 貴照	⑦八谷 有生	⑧山森 文平		
内部	①大岩 秀江	②重盛 憲三	③田矢 功司	④淵田 則次	⑤淵田 科
	⑥山中 賢治				
四郷	①伊藤 良子	②片岡 紀和	③鈴木 尚温	④田中 健二	⑤廣藤 秀雄
	⑥柳田 誠				
小山田	①矢田 和彦				
塩浜	①位田 正明	②松尾 秀一			
楠	①真鈴川 寛				
梈	①加藤 尚久	②安井 廣之			
保々	①本間 れい子				
下野	①星野 輝彦	②水谷 直巳	③水谷 正巳	④森 寛司	
桜	①雨宮 喜雄	②坂倉 健二	③中嶋 恒雄	④原澤 博文	⑤水谷 健一
	⑥山田 素久	⑦山本 哲也			
市役所	①石原 知明	②臼田 千枝子	③小田 慶一	④小谷 鐵馬	⑤杉本 浩多
	⑥塚本 久和	⑦寺島 秀樹	⑧中嶋 一樹	⑨二宮 俊之	
川越町	①石橋 樹	②上野 富生	③中尾 明江		
朝日町	①伊藤 毅	②田中 敏幸	③寺本 誉男	④山下 昌哉	
菰野町	①稲垣 政志	②畑田 みさ子	③服部 正大	④水谷 美紗子	⑤諸岡 隆

※平成27年3月18日災害医療アンケートの結果より集計

130名

(2)(3)合計：299名

7. 医療材料の備蓄

医師会員は、下記の表（例）のように普段から災害時に持ち出しができる医療材料等について、備蓄を意識して、保管・発注に心がける。

また、発災時においては、自院から地元地区市民センター等への連絡とあわせ、自院での診察が出来ないと判断した場合は、できうる限り持ち出す。

備蓄医療材料（例）

項 目	内 容等	
処 置 等	発災から1～2日間	
	主に外科的処置	
	重症患者は医療機関に搬送するまでの応急処置	
予測される傷病	多発外傷、熱傷、挫滅傷、切創、打撲、骨折等	
医 療 用	縫合セット	
	注射用器具	
	細胞外液補充液	生理食塩液、乳酸リンゲル液
	維持液	維持液3号注
	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェン、ロキソプロフェン
	抗生物質製剤	セファクロル、レボフロキサシン
	局所麻酔剤	局方リドカイン注射液
	外皮用薬	硫酸ゲンタマイシン
	湿布薬	冷・温パップ剤
	滅菌消毒薬	局方消毒用エタノール、ポビドンヨード
	衛生材料等	手袋、包帯、ガーゼ、脱脂綿、絆創膏、シーネ
	手指消毒ジェル	

8. 48時間以降の対応

発災から48時間後は新たな傷病者も少なく、生活環境の悪化に伴う内科・小児科的疾患や、災害後の精神的障害、慢性疾患の管理などの医療活動が中心となる。これらの疾患に対するプライマリーケアは、地元医療機関の機能が回復するまでは医療救護所で行い、専門治療や入院治療が必要な患者は後方医療機関へ搬送する。

また、四日市医師会災害対策本部が活動を始め、医師会事務局職員の態勢が整い次第、後述の10. 四日市医師会職員の行動マニュアルに基づき、地区市民センター等機能に代わり、各関係機関との連絡調整、情報提供及び情報収集の活動をする。

9. 災害訓練

四日市医師会では、災害時緊急連絡網のシミュレーション訓練に参加し、市・町及び地域が行う防災訓練等の際は積極的に参加する。

10. 四日市医師会職員マニュアル

四日市医師会事務職員・看護職員、訪問看護ステーション職員は、本人・家族・自宅に大きな損害がなく、すみやかに四日市医師会館に参集できる場合はこれを原則とする。

業 務

1. 四日市医師会災害対策本部活動の支援
 - (1) 四日市市・三重郡三町や関係諸機関との連絡調整を行う。
 - (2) 会員からの地域医療関係被災状況の情報収集を行う。
 - (3) 防災無線の管理・利用を行う。
 - (4) 地区市民センター及び役場・支所等へ情報提供及び情報収集を行う。

2. 医師会員・職員の安否確認
自宅が被災した会員・職員の避難支援

3. 訪問看護ステーション
 - (1) 在宅療養者の避難支援
 - (2) 訪問看護ステーション管理者は医師会本部に入る。
 - (3) 訪問看護ステーション職員は、医師会館にて、医師会本部の指示に従う。

四日市医師会通報書

風水害その他異常な自然現象もしくは人為的原因により甚大な被害が発生した場合に、FAXで各地区市民センター及び四日市医師会まで通報ください。通信可能な状況になってから送信していただければ結構です。

連絡先：四日市医師会 電話（059-352-9117） 無線（個別名称：四日市医師会 個別番号：72）
FAX（059-352-8050） 災害用携帯電話（080-1606-2710）

医療機関名		報告者名	
住所			
電話		FAX	

報告日時	年	月	日	午前 午後	時	分
------	---	---	---	----------	---	---

○患者治療 可 ・ 否

(注) 患者治療が「否」の場合であっても、「可」となった時点で通報ください。

○報告時点で可能な診療科目

- (医科) ①内科 ②精神科・神経科 ③小児科 ④外科
⑤整形外科 ⑥脳神経外科 ⑦皮膚科 ⑧泌尿器科
⑨産婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科
⑫その他 ()
(歯科) ⑬歯科

○当面の診療方針

- ①普段から通院されている患者のみ診察
②軽症の外傷処置のみ
③急性の内科的疾患のみ
④その他 ()

○不足医薬品・衛生材料名 ※通常ルートで確保できない場合のみ記入してください。

(注) 治療可能後に医薬品が不足した場合にはご記入後ご連絡ください。

○その他、連絡事項

	3							
				#				
	#							
			5	6				
		3						
		3						
		3						
		3						
		3						
	#	3		3				
		3						
		3						
		3						
		3						
		3						

平成26年度 救急及び災害医療対策委員会名簿（順不同、敬称略）

委員長 市原 薫
委員 淵田 則次、加藤 尚久、水谷 健一、宮国 博佳、
宮内 正之、松本 寿夫、渥美伸一郎、坂倉 健二、
山中 賢治、加藤 雅典、矢田 和彦、藤田 典己、
位田 正明、稲垣 政志、伊藤 博一、西村 秀敏、
与那覇 斉、伊藤 秀樹、